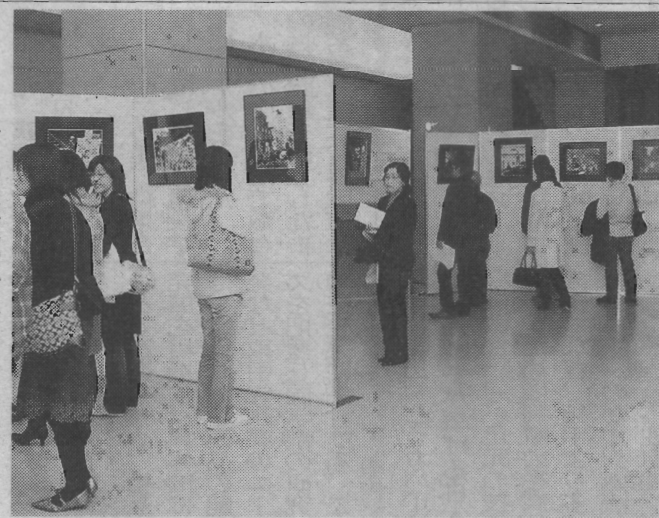


①「いやし」

文 理 社会学とデザインの視点 東京の魅力語る

文理学部の後藤範章教授を招き、社会学とデザイン(都市社会学)は11月24日、同学部百周年記念 東京の景観について語り館に千葉大学の清水忠男(合)った。



多くの来場者が訪れた東京展

キャリアトーク「歩いて・見て・感じる『東京』」と題された催しで、後藤教授は「東京にはガラス張りのカフェなど街行く人を魅了する建物があふれている」と東京の魅力を解説。清水教授は街路樹にガードレールが食い込んだ写真を示し「木を植えるなど自然と街を共存させようとしているが、二つは互いに反発している。もっと自然を生かした新しいデザインを考えたい」などと述べた。

催しは、11月20日から29日まで開かれた同学部主催の展示会「『東京』を観る『東京』を読む」の一環。写真展には後藤ゼミの学生らが撮影した写真や千葉大の学生が考えたデザイン画も展示された。後藤教授は「来年は映像や音を取り入れた作品も展示したい」と話した。

③「そのコウボレーションを実現」

2007年(平成19年)12月20日(木曜日)

②

後藤教授は「東京では『見る一見られる』の主客が逆転した『見せる／魅せる一見る』関係が優勢」と述べ、東京の女性が洗練される要因を分析した。清水教授は街路樹にガードレールが食い込んだ写真を示し「変化し続ける巨大な人工環境が多様な『いやし』を求め、新たなデザインを必要としている」などと述べた。

上欄の記事の3ヶ所については、それぞれ①②③に入れ替えて読んで下さい。

第1249号

日本大学新聞

発行所 日本大学新聞社
東京都千代田区九段南4-8-24
〒102-8275 電話03-5275-8144
郵便振替口座 東京6-119766
(大正10年10月15日創刊)
(毎月20日発行・8頁120円)